

ご自由にお持ちください。

**140** SINCE 1881  
**TH**  
INOUYE  
EYE HOSPITAL GROUP  
140th ANNIVERSARY



## 患者さまの眼の人生に寄り添って140年

140周年スペシャルインタビュー「これまでの治療と、眼の総合病院としての未来」井上理事長

先生の、見つめてきたもの〈vol.01〉天野院長 / いいもの見つけた

井上眼科だより  
140周年記念号

2021  
SPRING

vol. 116



医療法人社団 済安堂

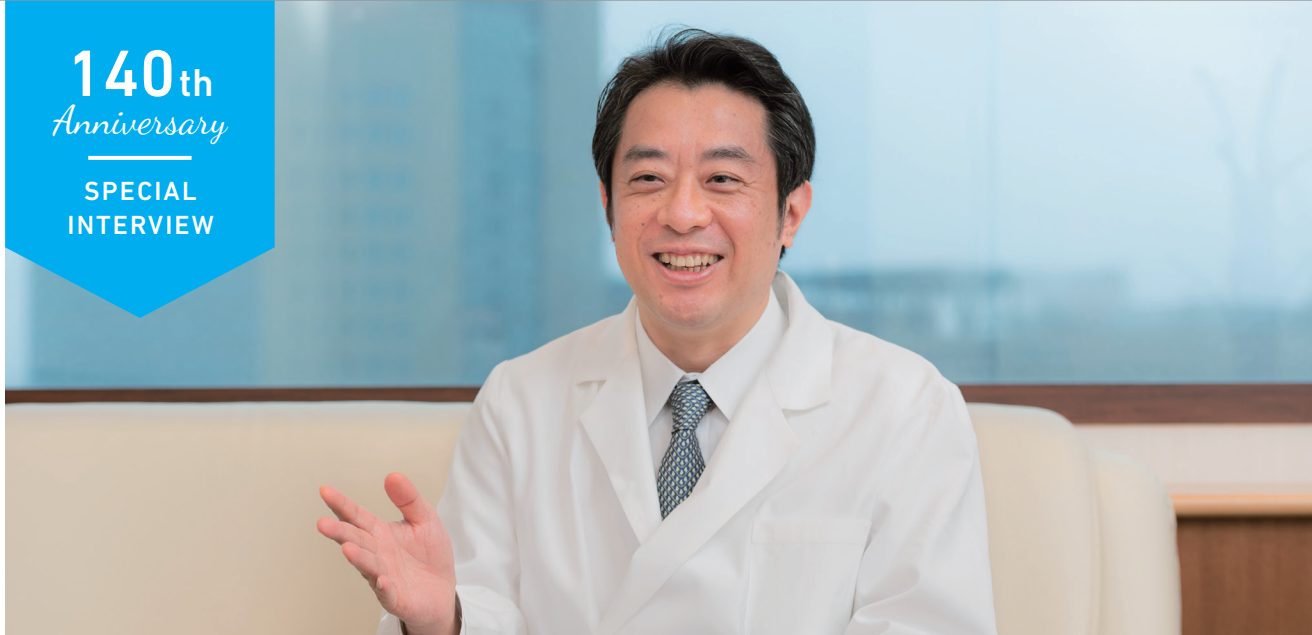
井上眼科病院グループ  
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

# INOUYE EYE Note

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ページ

140th  
Anniversary

SPECIAL  
INTERVIEW



# 「これまでの治療と、眼の総合病院としての未来」

医療法人社団済安堂理事長  
井上眼科病院院長

## 井上 賢治

時代の変革期に

開院一四〇年を迎えて

神田駿河台に井上眼科病院の前身となる「済安堂医院」が創立されたのは一八八一年（明治一四年）。初代院長の井上達也は、海外で最先端の眼科学を学び、当時まだ国内に普及していなかった技術や検査機器を次々と取り入れ、日本における眼科医療の礎を築きました。

それから一四〇年、井上眼科病院は眼科医療の発展と共に歩み、創立から私で十一代目の院長（直系では五代目）となります。現在は2つの病院と3つのクリニックを擁する井上眼科病院グループとして、全国から来院される患者さまに最先端の医療をご提供しています。

近年の新薬や検査機器の進化には目を見張るものがあります。一方で、超高齢社会を迎え、治療して終わりではない、その先を見据えた総合的な医療が求め

られています。私が理事長になって約十年になりますが、長い歴史のなかでもこれほどの大きな進化はないでしょう。日本の眼科医療の先駆者たる誇りを大切にしながら、令和の時代の新たな役割を模索する時がきていると感じています。

父から受け継いだのは

患者さまへ選択肢の幅を

ご提案していくこと

当院グループの大きな改革に着手したのは第九代目井上眼科病院院長の父でした。西葛西に初の分院を設立すると、その後も小児眼科などの専門外来を新設し、診療体制を充実させました。私の代でも、遠くから来院される患者さまが通院しやすい拠点を増やすため、大宮や札幌にクリニックを開設しています。また、二〇一五年には地域の患者さまの利便性を考え、西葛西・井上眼科病院、西葛西井上眼科子どもクリニック、西葛西井上眼科クリニックの3つの施設を移転・統合しました。

私たちは、眼科の総合病院としての多様なニーズに応えるために、保険外診療の治療法もご提案してきました。常に時代を先取りしていた父は「レーシック手術」をいち早く取り入れましたが、現在

では「ICL（アイシーエル）手術」、「プレミアム白内障手術（高機能多焦点眼内レンズとフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術）」なども扱っています。患者さまには納得されたうえで治療を受けていただきたいので、随時説明会を開催し、専門のスタッフが丁寧に説明をしています。今後もQOV（クオリティオブビジョン＝見え方の質）の向上を目指し、より多くの治療の選択肢をご提案していただけるよう努めてまいります。





## グループ全体で、地域や 同門会の先生方と共に 患者さまを診ていく

現在、井上眼科病院、お茶の水・井上眼科クリニック、西葛西・井上眼科病院、大宮・井上眼科クリニック、札幌・井上眼科クリニックと5つの医療施設を展開しています。私自身、月に1、2度は西葛西、大宮や札幌などに診察のため足を運びます。その際に現場スタッフと直接会ってコミュニケーションをとるよう心がけています。また地域のクリニックや当院グループ出身の全国の同門会（OB眼科医）の先生方との連携にも力を入れています。高齢の患者さまが通いやす



いように、ご近所のクリニックに診療を引き継ぐなど、状況に応じた包括的な診療ができるような体制を整えています。

## ロービジョンの方への サポート体制

見えにくい方への支援（ロービジョンケア）は私たちが特に力を入れている分野です。お茶の水・井上眼科クリニックでは、ロービジョンの方が職員として活躍されています。視覚障がい者用IT機器のサポート係として、患者さまの気持ちに寄り添ったご案内がご好評をいただいております。病気になる、心理的、経済的な心配ごとが色々と出てくるものですが、その点もご安心ください。患者さまやご家族がよりよい社会生活を送れるようご相談に応じるソーシャルワーカーが院内に常駐していますので、ぜひお問い合わせください。

## AIを活用しての緑内障の 早期発見に注目しています

私の専門は緑内障です。点眼薬や手術の方法などの進歩が著しい分野ですが、それでもなお早期発見・早期治療が大切なことに変わりはありません。初期の緑

内障は自覚症状がほとんどないため、どうしても眼科を受診するタイミングが遅れがちになってしまいます。なるべくたくさんの方に眼底検査の重要性をご理解いただき、眼科ドックなどの定期的な検診をお勧めしていくことも私たちの務めだと考えています。

早期診断ということで最近注目しているのは、AI（人工知能）を活用した治療ですね。膨大なデータや画像を分析できるAIを導入することで、より精度の高い治療を提供できるのではないかと期待しています。まだまだ発展途上の技術ではありますが、AIと医師がお互い助け合う日が来るのもそう遠くはないのではないのでしょうか。

## 患者さまのニーズに応える これからの眼科医療

生活に大きくかわるQOV（見え方の質）への関心は、今後ますます高まるでしょう。小さなお子さまからご高齢の方まで、眼の健康と視力を生涯にわたって維持するために何をすべきか。患者さまのニーズに応えるきめ細かな診療とは何か。課題はつきません。ただ、長い歴史のなかで培われた井上眼科病院グループにしかない眼科医療が必ずあると

信じています。

これからは、医療技術の進化はもちろんですが、価値観の多様化や社会構造の変化にも注目していかなければなりません。そのうえで、「患者さま第一主義」という理念を次の世代にしっかりとつなげ、これからの十年、創立一五〇周年に向けて後進の育成にも力を注いでいきたいと思っています。

## 井上 賢治 Kenji Inoue

医療法人社団済安堂理事長  
井上眼科病院院長

1993年千葉大学医学部卒、1998年東京大学医学部大学院修了。眼科専門医。専門は緑内障。2002年より井上眼科病院に勤務し2008年に医療法人社団済安堂理事長就任。2012年から井上眼科病院院長を兼務。日本眼科医会常任理事。140年（1881年創立）の歴史を有し、代々受け継がれた眼科専門病院のトップを務める。

患者さまが識別しやすいように院内の照明や設備、案内板にユニバーサルデザインを導入しています。





わたしに、  
夢を抱かせてくれたのが、  
身近なところにいた  
眼科の先生でした。

この春、お茶の水・井上眼科クリニックの  
院長に就任した天野先生。

診療の中で研究を続けていく、  
そのチャレンジ精神のルーツに迫ります。

### 天野 史郎

Shiro Amano

お茶の水・井上眼科クリニック院長

1986年東京大学医学部卒。ハーバード大学研究員、東京大学眼科教授を経て2017年に井上眼科病院副院長就任。専門は角膜疾患。日本眼科手術学会理事。日本角膜移植学会理事。2021年4月よりお茶の水・井上眼科クリニック院長就任。

### 幼なじみと一緒に学び、医師の道へ

小学生の頃、学校が終わると草野球ばかりしているようなわんぱく少年でした。ある日、毎日一緒に遊んでいた幼なじみに、もう放課後は遊べないと言われたのです。おどろいて理由を聞くと「塾に行くから」と。わたしは勉強をしたいというより大好きな友人と一緒にいたい一心で親に頼みこみ、同じ塾に通い始めました。はからずも塾に入ったことで勉強の楽しさや自分が理系に向いていることに気付かされ、中・高・大と彼と同じ学校に通うことになりました。彼の母親は、当時地元で評判の眼科医でした。家に遊びにいき、手際よく診察する姿がとても素敵で、患者さんたちの笑顔に囲まれるその姿を見るたびに、尊敬の念は深まり、わたしは医師という職業に憧れを持つようになりました。自分が眼科の医師として今ここにいるのは、彼と彼のお母様の影響が大きかったのでしょうか。

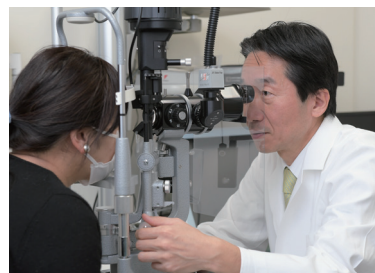
### 国内外で学んだ最先端の医療を、 患者さまに届けたい

研究が好きで、医学部卒業後も大学に残り、角膜疾患の専門医として臨床の経験を積みながら基礎研究を続けることは、わたしにとってごく自然な流れでした。さらに最先端の研究を求め、35歳からの2年間は、ハーバード大学で血管新生のメカニズムの解明に没頭していました。比較的自分のペースで研究を進めることができたので、アメリカ中を旅して回れたのもよかった。特に、マーサズ・ヴィニヤード島はとても景色が綺麗でのんびりできるよいところでしたよ。世界をリードする数多くの研究や治療に直接触れることができた米国での経験は、とても貴重なものでした。帰国後も、新しい手術法を学ぶために米国を訪れています。井上眼科病院でわたしが執刀する「角膜内皮移植手術(DSAEK)(DMEK)」も、米国で習得した技術のひとつです。高度なテクニックを要するため、日本ではまだ限られた

医師しか執刀できないものですが、このような新たな治療法こそ若い先生方にどんどん広めていきたいと考えています。さらに最近話題のIPS細胞による角膜再生医療など、最先端の医療を一日も早く患者さまの治療に役立てられるよう努めていきたいですね。

### 困っている患者さまのため、 “研究マインド”をずっと持ち続けたい

お茶の水・井上眼科クリニックに来てからは、毎日色々な症例の患者さまを診察していますが、稀に診断に悩む場合があります。その時は、仲間の先生と意見を交換したり海外の文献を調べたりして徹底的に検証します。それでも診断がつかない時には、自分で研究してみようという気持ちになりますね。このいわゆる“研究マインド”は、基礎研究から始まったわたしのキャリアの原点なのだと思います。忙しくても、持ち続けていきたい“こだわり”とでも言いましょうか。患者さまが何に困っているか、その原因を探り、問題を解決してあげたい。そんな想いで日々患者さまと向き合っています。



井上眼科病院では、患者さま一人ひとりに寄り添い、少しでも不安が解消するようスタッフが丸となって治療に取り組みます。日本を代表する眼科の専門病院として、ぜひ安心して何でもご相談いただき、わたしたちに眼の困りごとを預けていただきたいと思います。



ゴルフが趣味です。今年はなかなか行けませんが、また自然の中でプレーしたいです。







合併症を伴う難症例の手術実績も積み上げた、手術・入院を担うグループの基幹病院。

当院グループは患者さまの立場を考えて診療を行う「患者さま第一主義」、「実証医学(EBM)に基づいた検査と治療」、「『眼』の総合病院の確立」を基本理念としています。時代に即した患者さまの多様なニーズをくみ取り、高度な医療と安全で快適に過ごせる空間をご提供します。



お茶の水の井上眼科病院から外来部門を独立させ、多種多様な専門外来を設けた「眼」の総合クリニック。

非常に多岐にわたる眼の疾患に対応できるよう、各専門の眼科医を集め、その専門外来を設けています。患者さまへ、レーシックや ICL 手術、プレミアム白内障手術などの自由診療の選択肢も広げ、それぞれのライフスタイルやニーズに合わせた「見え方の質」を高める治療を行います。



地域に密着しながら、眼科医療の拠点として、網膜硝子体疾患を中心とした高度な手術にも対応。

江戸川区を中心に近隣エリアの、地域眼科医療の拠点として貢献したいという思いから開院しました。網膜硝子体疾患を中心とした高度な手術に対応し、グループ内外の病院やクリニックとも強力に連携。地域の特性に合わせ、小児眼科外来などの専門外来も充実させています。



遠方から来院される患者さまにとって利便性があり、専門外来や日帰り手術などにも幅広く対応。

お茶の水や西葛西に通院の患者さまからの、「自宅から通いやすい分院をつくってほしい」というお声をきっかけに開院しました。乗り入れ路線数も多く、アクセスしやすい埼玉県の大宮駅から徒歩3分の、通院しやすい環境です。入院や重症例の場合は当院グループ内で連携します。



最新設備を整え、専門性の高い治療を北海道全域の患者さまへ届け、眼の健康をお守りします。

北海道の拠点として2019年に札幌に開院しました。地域の患者さまとの触れ合いを大切に、公開セミナーを開催しています。駅から屋外に出ることなく地下通路から通院できます。超音波白内障手術装置や涙道内視鏡、緑内障レーザーなどの最新設備を備え、専門性の高い治療をご提供します。



いいもの「見」つけた!



先生たちが最近見つけた、身近な「いいもの」をご紹介します!



最近は SNS に料理やお菓子をアップするのが日課で、パン作りも大好きです。仕事や育児に忙しいですが、料理が大好きです。記録として SNS に画像をアップしています。人に「見」てもらい、いいね! をもらえるのが励みになりますね。



野崎 令恵  
Norie Nozaki

大宮・井上眼科クリニック院長



YouTube でレシピ動画を見ながら料理を作っています。フライパン一つでできる簡単なものから、見た目が華やかな料理まで色々挑戦しています。調理器具や食器も料理が美味しそうに見えるものを揃えました!



清水 恒輔  
Kosuke Shimizu

札幌・井上眼科クリニック院長



第二子の誕生で子供の面倒を見るのに振り回される毎日です。病院での仕事が終わると、家での仕事が待っています。そんな中、東京近郊のコストコに出かけて行き、色々「見」て回るのが息抜きです。食材や子供の遊び用具などを探すのはまっています。



藤本 隆志  
Takayuki Fujimoto

西葛西・井上眼科病院副院長



140th  
Anniversary

COMPARISON of  
NOW & OLD

## 井上眼科病院は、今年140周年を迎えました。

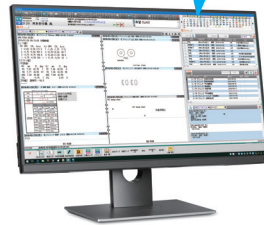
This year marks the 140th anniversary.

初代院長の井上達也が1881年(明治14年)、「井上眼科病院」の前身となる「済安堂医院」を創立し、「井上眼科病院」は、本年、2021年2月で140周年となりました。



初代院長 井上達也

井上達也は、若くして独・仏に留学し、当時の先端の眼科学を数多く日本に取り入れていきました。白内障手術の第一人者であり、また眼科学会の前身となった「井上眼科研究会」の会頭も務めました。1890年に完成した4階建煉瓦造りの新病院には、様々な治療に対応できるよう、画期的な設備を完備しました。140年前から、現在も変わることなく、患者さまの想いを一番に考え、患者さまの眼の人生にずっと寄り添っていく治療を続けています。



旧駿河台井上眼科病院と、現在の井上眼科病院の外観。開院当初は手書きだったカルテは、現在は電子カルテになっています。



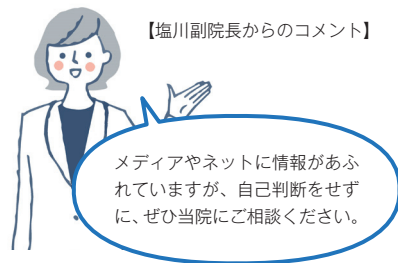
【表紙写真について】 明治14年2月、駿河台に「済安堂医院」の看板を掲げ、その後明治25年に「井上眼科病院」と改称したときの写真です。井上達也（前列中央）と医局員・塾生達。

## NEWS TOPICS / INFORMATION

お茶の水

4月から塩川美菜子医師が「井上眼科病院」の副院長に就任しました。

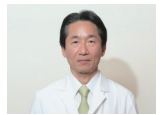
2003年(平成15年)に入局した塩川医師は、特定の分野に特化するのではなく、幅広い疾患に対応するのが強みです。女性ならではの視点も生かし、様々な状況や価値観の患者さまに寄り添う、きめ細かな診療に定評があります。



お茶の水

「ドライアイIPL光線治療」を開始します。

最新の研究で、ドライアイ症状に「マイボーム腺機能不全(MGD)」という病気が影響していることが分かってきました。まぶたにIPLという光を照射することで、マイボーム腺の詰まり・炎症を改善し、涙の「脂不足」を解消していきます。IPL光線療法は、目薬では改善しにくいドライアイにも効果が期待されています。



担当医：天野院長



詳細はこちら▲

グループ

世界緑内障週間「ライトアップ in グリーン運動」に参加しました。



緑の光は「あなたの眼がずっと見えていますように」という希望の光でもあります。

毎年3月の世界緑内障週間の期間中、緑内障の認知・啓発をする国際的イベントが世界各地で行われます。当院グループでは各地の施設を緑色にライトアップする「ライトアップ in グリーン運動」に2017年から参加しており、今年から新たに札幌・井上眼科クリニックが加わりました。

お茶の水

西葛西

入院病室に「フリーWi-Fi」が導入されました。

お茶の水の「井上眼科病院」と「西葛西・井上眼科病院」の入院病室にフリーWi-Fiが導入されました。ご入院予定の患者さまは是非ご利用ください。各病室ごとにID・パスワードが設定されており、詳細は病室内に掲示してあります「ご利用のご案内」をご確認ください。

